

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

奉仕を通じて平和を
Peace Through Service



平和そして明るい未来
Peace, And Bright Future

国際ロータリー会長 田中 作次

2012~2013

富津中央RC会長 高橋 裕之

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2272 第19回例会 2012. 11. 15 晴

点 鐘：高橋裕之 会長
進 行：刈込一弥 会報・広報委員長
ソング：我等の生業

三井会員のマザー牧場で、かねてより案内のありましたLEDイルミネーションを使った、「キラキラ*ウィンターファーム」の点灯式があります。当クラブでも会員誘い合わせの上参加したいと思いますのでご協力よろしくお願ひいたします。

会長挨拶

高橋裕之 会長



皆様こんにちは。先週は資格の更新講習があり、欠席させていただきました。須藤副会長、ありがとうございました。また、先々週の親睦旅行は、榎本親睦担当部長夫妻の抜群な企画力で、参加者一同、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

さて、世間では明日が衆議院解散と騒がれていますが、私はもっぱら、アルトサックスの練習に勤んでいるところです。我ながらかなり上手く吹けるようになりました？ので、上達めざましい榎本会員のエレキギター共々、忘年親睦例会は楽しみにしててください。

最後に、11月22日(木)の例会は休会ですが、

幹事報告

若鍋武良 幹事



皆さんこんにちは。幹事報告をします。

1. 次の各クラブより週報が届いています。
塩山RC、富津シティRC、袖ヶ浦RC
2. 木更津東RCより例会の変更です。

日時:12月19日(水) 点鐘18時30分

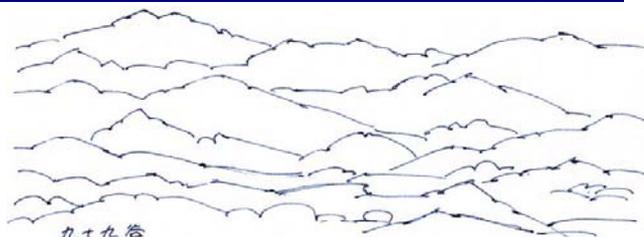
場所:オークラアカデミアパークホテル

内容:「クリスマス家族夜間例会」



ポピー

〒293-0042 富津市小久保2868
さざ波館 Sazanami-kan
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,
Zip code 293-0042
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



九十九谷

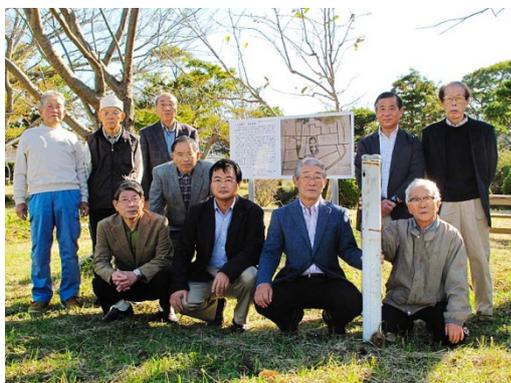
委員会報告

奉仕プロジェクト委員会

大網庄一郎 社会奉仕担当部長



小久保藩庁・藩主邸跡への解説板設置については、予定通り11月11日(日)に完成お披露目、当クラブからの設置費の贈呈を行いました。



当クラブからの参列者は高橋会長、山田副幹事、大網社会奉仕担当部長。

2011-12年度会計決算

大網庄一郎 会計

今年度予算については活動計画書の通りですが、前年度決算の報告が遅くなり申し訳ありませんでした。収支の主な内容については別紙の通りで、志波監査の承認を頂いてありここに報告致します。

内容について更に詳細な説明が必要であればお申し出下さい。

指名委員会

原田雅式 指名委員長

12月6日(木)午後6時30分から当さゞ波館にて次期役員・理事の指名委員会を開きます。

会員総会は12月13日開催予定です。

別件ですが、浅間山花畑の方は、ようやくメガソーラー事業者が決定しましたので、これから作業が始まります。

親睦旅行絵画・俳句選

絵画の部

榎本守男 会員



先日の山中湖畔一泊親睦旅行時の絵を佐藤会員に見てもらった所、次の人たちの作品が特に優れていると言われました。

高橋裕之、高島治雄、若鍋武良、石渡栄子。

これらの作品は、会報の紙面に空きが出来た時、順次掲載しますので楽しみにして下さい。

尚、色の塗られた絵を対象に選んだそうですので、未着色の方は色が付きましたら再提出願います。

俳句の部

千葉一利 会員



名句が多くて選ぶのに苦労しました。

今日は高島会員の卓話がありますので、発表は次の例会にします。その時には三枝会員の選も発表出来ると思います。



部屋からの富士 撮影:高橋 加工:志波

卓話

フランスの旅そしてモンサンミッシェル

高島治雄 会員



○私の見たフランスのイメージ

フランスの人口は約6,500万人、面積はおおよそ55万平方キロ、日本の約1.5倍である。ヨーロッパでは南北に海に接している国はフランスだけである。あまり高い山はなく、北海道の風景の連続～連続で肥沃の土地が続く、ヨーロッパでは随一の農業国と言える。それもそのはず、国土の56%が耕地であり、食糧の自給率は100%。そして世界でも第3位の小麦の輸出国という(1位アメリカ、2位オーストラリア)。パンが日本の1/2の値段。



パリ郊外にある広大なフォンテーヌブローの森に建つフォンテーヌブロー城(ここは歴代の国王が狩りを楽しむために建てられた別荘の城、ナポレオンはベルサイユ宮殿よりこの城を好み城の中に多くの足跡を残しているが、ロシアのモスクワへの進軍で冬将軍に悩まされフランスに撤退し、更にワーテルローの大会戦に敗れてパリを開城し、イギリスによりイタリアのセントヘレナ島に流刑の身となるフランス最後のお別れがこの城であり、そのテラスと石段が残っている世界遺産である)。この城に行くまでに広大な耕地の中をバスが走るが数百年前と風景が変わらない。この辺があ有名なミレーの晩鐘の絵がかかれた舞台ですと説明を受けたが、今でも農

夫婦が佇み遠くから教会の鐘の音が聞こえてくる原風景を感じた。
○フランス人はあまり働かない…



…これも人生～

フランス人はあまり働かないと言われる。前述の農業にしても、いくらでも耕せば肥沃の土地があるのにそれをやらないし、農業人口も減少している。しかし最近フランスでも大学を出ても職が無く、若者達が農業経営に帰って来ていると聞く。

フランスは週36時間労働制である。サービス業や一部の商業を除き、官公庁や企業が実施している。従って月～木の4日間8時間働けば32時間、金曜は残りの4時間働けばよいことになる。勿論土・日曜は休み。日本では夢のような話である。因みに日曜日は一部のレストランや地域を除いて殆どの商店が休業である。だからフランス人はお金のかからない余暇の楽しみ方が上手と言う。例えば今は森のキノコ狩りとか、森の中を終日トレッキングするとか、オープンカフェで長話とか…。

○パリ寸感

パリは人口210万、人種のるつぼであり(移民問題で揺れる由縁である)、南北9k～東西13kの丁度山手線の内側だけの狭い市だが世界の代表的都市である。

さすがパリは随所に世界遺産として指定されているものが多く文化の香り高い芸術的雰囲気溢れた街である。

ルーブル美術館に代表される多くの美術館(ルーブルはベルサイユ宮殿の前の宮殿)や博物館、シテ島のノートルダム大聖堂やモンマルトルの丘



に建つ白亜のサクレクール聖堂などの教会群、更にはオペラ座や凱旋門など歴史的建造物等々数

えればきりが無い。市を二分して流れるセヌ川自体が世界遺産である。



確かにセヌ川クルーズをやると、ひととき金色の像が並ぶセヌ川最大のアレクサンドル3世橋からエッフェル塔を望む風景は美しいし、絵心を誘う。セヌ川の橋には全て固有の美術的彫刻物が飾られている。

今でも思い出すのが、日曜日にパリ市街が一望できるモンマルトルの丘のサクレール聖堂を訪れた時、壮大なミサに列席できたことである。巨大なパイプオルガンが教会内に響き渡り、聖歌隊の美しいハーモニーと共に多くの牧師による荘厳なミサに多数の信者と共に参加できた時には、クリスチャンではないが言いしれぬ和らぎと厳粛な思いに囲まれた。しばし時を過ごしたことが忘れられないよい体験でした。

思い出を語り始めたら切りがないが、この様にパリは何日いても飽きない街である。

○でも三つほど残念なことがある。

①車の渋滞が半端ではないこと

例えばタクシーで僅か5~6kのホテルに帰るのに、所要時間90分以上、料金46ユーロ。これでは流通業やビジネスも成立しないのでは…。

それには理由がある。狭い市街の上に車社会に対応できない道路、その上、片道殆どが駐車道路は一方通行にならざるを得ない。

②治安があまり感心できない。…スリの横行

現実に私達ツアー仲間にパスポートをスラれた人、サイドバックを切られた人等続出であり、最近では旅行者だけでなく、市民もスラれる人が多いとか。特に若い人達による集団スリが増加しているとのこと。

③社会的マナーに首をかしげたくなること

その1つが道路横断が無秩序で、信号無視が当たり前。その2がタバコの吸い殻のポイ捨てと路上

喫煙である。かの有名なシャンゼリゼ通りの街路樹の根元は散乱した吸い殻だらけの状況には少しがっかりした。美しい街も台無し。

以上フランス旅行での見たこと聞いたこと感じたことを、まとまり無くずらずらと話してきましたが、ここで私が最後の海外旅行として選んだモンサンミッシェルの事についてお話ししたいと思います。

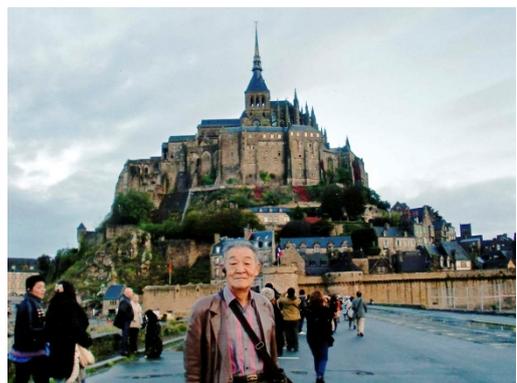
モンサン・ミッシェルへの誘い

○モン・サンミッシェルの歴史はイギリス海峡・サンマロ湾に面する岩石の小さな島の上に建つ修道院から始まる。

そこは引き潮の時だけ陸地と連がる小さな島だが、その都度の歴史の中で重要な役割を果たし、その度に存在意義が高まって、有名になり、フランスのノルマンデー地方のシンボルとなっている。

その歴史から見ても、また固い岩石の上に建つ建造物のすぐれた技術の高さといい、そして何よりも島のシンボルであるミカエルの像を尖塔に持つ修道院が島全体と調和して、美しくも逞しい風格のあるたたずまいが素晴らしく、世界の人々が訪れたい世界遺産のNo.2と聞くがうなずける。

○伝説によれば、10世紀、当地方のオペール司教に大天使ミカエルが夢に立ち、「引き潮だけに近づける海上の岩島に祈祷堂を作りなさい」とのお告げを受けたが、当初単なる夢の話と気にも止めずにいたところ、三度目の夢にミカエルが大司教の頭をたたいて同じお告げを言われた。



これは本物とこの島の岩山に小さな修道院を建てたのが始まりと言われ、その後巡礼のメッカとなり、数世紀に亘り改修と拡張工事を重ねて現在に至っているそうである。

オペール大司教の頭蓋骨には、ミカエルに打たれて出来た凹があると伝えられている。

○修道院は3階建で最上階は貴族や富裕者達が

礼拝する大理石の見事な食堂や回廊、2階は修道士達の居場所、1階や地下は貧しい人々の修養の場となっている。

12世紀に入ると英仏戦争(フランスの歴史はいつもイギリスとの戦いの歴史)最前線の要塞となり、その戦跡を残す。その和戦交渉の舞台ともなる。



また、フランス革命の折には、一時革命軍が接収し、牢獄として使用され、今でも6人1組の囚人達が水を吸い上げるための大きな滑車が残っている。このように宗教的にも歴史的にもそれぞれの存在があったのがこのモンサンミッシェルである。

○ 実際に門に入ると、まるでタイムスリップしたような錯覚を覚える。そこは15～6世紀の家並みと狭い石畳の登り坂が続く。今両側とも商店街とある部分修道女の居室となっているが、その終わりが修道院の入口に連がる急な階段である。この通りは大勢の観光客で賑わう。現在この島に常駐しているのは30数人とか。修道士が20数人そして商店の一部の人と聞く。



修道院に入ると、貧富の差歴然の違和感のある場所。そしてロマネスクとゴシック調が混在する礼拝堂。かつての城塞の跡も残し、また牢獄であった当時の面影や施設もある。

この狭い場所に瞑想のための回廊と庭があるのも印象に残る。この様に多彩な顔を持っているのが、モンサンミッシェルである。

○ ひととき美しいのは、教会の尖塔に立つ輝くミカエルの像であるが、このモンサン・ミッシェルは1日の中でそれぞれの美しい風景を示す。

夕日を背にしたモンサン・ミッシェル、ライトアップすると空に光の輪が表れる夜のモンサン・ミッシェルの姿、清々しい姿の朝のモンサン・ミッシェルがある。だからこの島を訪れるのは是非一泊するスケジュールがおすすめである。

○ この島は100年前(明治時代)に堤防が作られたが、その為に潮の干満が阻害され、かつて引潮のみ訪れることが可能であったこの島の本来の姿が失われてしまったため、現在大々的に堤防撤去と新しい橋を作る工事が進められている。

モンサン・ミッシェルはまさに人類と大自然の共同作業により誕生した落とし子であると言える。

○ 補足だが、このモンサン・ミッシェルの地でメジャーな食べ物は、サブレクッキーとオムレツである。



特に安くて栄養のある食べ物を貧しい巡礼者達に食べさせてやりたいと考案された特色のあるオムレツは有名である。

ニコニコ BOX

石渡 鋼 親睦担当委員

大網庄一郎 親睦旅行の写真を頂いて

若鍋武良 // //

千葉一利 // //

須藤 隆 // //

石渡 鋼 // //

榎本守男 // //

高島治雄 // //、及び、謝謹聴卓話

高橋裕之 // //

原田雅式 // //

合計 9,000 円

出席報告

原田雅式 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	20/19	13	6		68.42%
前回	20/19	15	4		78.95%

あとがき：都合で親睦旅行に参加できず、榎本親睦担当部長報告の楽しい雰囲気にはたれず、またダイヤモンド富士も見られなかったのは残念。

今週は休会だったので、ゆっくりと皆さんの力作絵画から会報用ファイルを作成。今後順次お披露目します。(しば)

親睦旅行写生会特選(佐藤信泰選4作品の1)

—— 朝日に映える富士山 ——



35*25 cm 高橋裕之